



学 会 通 信

第 92 号

2019 年 9 月 27 日発行

## 目次

2019 年度定例会総会開催通知（会告） .....	2
第 26 回年次大会のご案内【直前号】 .....	7
ICoME2019 のご報告と次年度のご案内 .....	10
第 1 回研究委員会 研究会のご報告 .....	11
「教師のセルフスタディ」に関する概要と執筆手引き +募集告知（第 2 報：最終） .....	12
論文投稿のご案内 .....	15
学会費納入のお願い，入会者・退会者 .....	16

---

## 2019 年度定例会総会開催通知（会告）

---

正会員各位

下記により 2019 年度日本教育メディア学会定例会総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2019 年 10 月 25 日（金）必着）。

2019 年 10 月 1 日  
日本教育メディア学会  
会長 小柳 和喜雄

### 記

1. 日 時：2019 年 11 月 2 日（土）12:30－13:20（年次大会第 1 日目）

2. 場 所：徳島文理大学（徳島キャンパス）9 号館

3. 内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2018 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2018 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2019 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2019 年度収支予算（案）

（2）報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②2020 年度年次大会の件
- ③ICoME2020 の件

④理事交代の件

⑤その他以上

(1) 議案

第1号議案 2018年度事業報告及び収支決算承認の件

2018年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第25巻1号、第25巻2号を刊行し、H30年度会費納入済み会員に配布した。

2. 学会通信第86号(2018年5月23日発行)、第87号(2018年7月23日発行)、第88号(2018年10月31日)、第89号(2019年1月31日発行)を刊行し、会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第25回年次大会を、鹿児島大学で開催した(2018年11月24日～11月25日)。

また、「第25回年次大会発表論文集」を刊行した。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催した。

(1) 2018年度第1回日本教育メディア学会研究会

「地域・情報・文化をつなぐ学びと教育メディア／一般」

(2018年7月8日：はこだてみらい館)

(2) 2018年度第2回日本教育メディア学会研究会

「ICTを活用した授業実践と評価／一般」

(2019年3月9日：福井大学)

2. ICoME2018を共同開催した。(2018年8月15日～8月18日：韓国 忠北大学)

3. 企画委員会によるワークショップを開催した。

(1) ワークショップ

「プログラミング教育のあり方を探る」

(2018年7月8日：はこだてみらい館)

(2) ワークショップ

「教育メディア研究の海外展開～生起する「摩擦」に着目して～」

(2019年1月12日：関西大学梅田キャンパス)

④2018年度収支決算（案）、監査報告

2018年度収支決算を以下に記す。

2018年度決算報告

1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,699,127	3,699,127	0	2017年度から繰り入れ
正会員会費	1,708,000	1,204,000	▲ 504,000	172名分（前年度232名分。正会員数大幅減少。357名→317名）
学生会員会費	108,000	73,000	▲ 35,000	18名分（昨年度16名分。学生会員減少42名→36名）+1000円超過入金
団体会員会費	300,000	250,000	▲ 50,000	5団体
購読会員会費	77,000	42,000	▲ 35,000	6会員
過年度正会員会費	126,000	86,000	▲ 40,000	10名
過年度学生会員会費	8,000	24,000	16,000	6名
過年度団体会員会費	0	0	0	0団体
過年度購読会員会費	7,000	14,000	7,000	2会員
入会金	50,000	64,000	14,000	32名分
雑収入	200,000	167,030	▲ 32,970	別刷り印刷，利子，誤入金
計	6,283,127	5,623,157	▲ 659,970	

2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	350,000	162,330	▲ 187,670	学会誌・別刷郵送費，その他郵送費
消耗品	150,000	31,913	▲ 68,087	封筒，文具等
設備・什器	50,000	0	▲ 50,000	新事務局什器整備費
印刷製本	1,000,000	677,396	▲ 322,604	教育メディア研究25(1)・25(2)
会議費	100,000	33,296	▲ 66,704	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	0	0	0	ICoME2018 国外開催のため
借損料	50,000	16,632	▲ 33,368	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	200,000	95,250	▲ 104,750	監査に係る旅費，事務員旅費
諸謝金	550,000	624,300	74,300	事務局補助謝金，J-Stage 移行謝金
年次大会委託費	400,000	12,867	▲ 387,133	参加費等による黒字
研究会委託費	200,000	85,422	▲ 114,578	参加費等による黒字
企画委員会委託費	200,000	216,304	16,304	
システム運営費	85,000	32,215	▲ 52,785	ホスティングサーバー料金，DNS 料金，選挙システム料金
論文賞賞金	60,000	62,229	2,229	賞金，賞状
雑費	50,000	4,752	▲ 45,248	振込手数料
予備費	2,838,127	4,000	▲ 2,834,127	誤入金返金
次年度繰越金	0	3,564,251	3,564,251	2019年度に繰り越し
計	6,283,127	5,623,157	▲ 659,970	

## 第2号議案 2019年度事業計画及び収支予算案

2019年度に実施する事業は次のとおりである。

### ①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第26巻1号、第26巻2号を刊行し、会員に配布する。
2. 学会通信第90号～第93号を刊行し、会員に公開する（メーリングリスト、Webサイト）。

### ②年次大会の開催

日本教育メディア学会第26回年次大会を、徳島文理大学で開催する（2019年11月2日～11月3日）。

また、「第26回年次大会発表論文集」を刊行し、申込者に配布する。

### ③学術交流等

1. 次の研究会を開催し、日本教育メディア学会研究会論集は電子配信する。

#### (1) 2019年度第1回日本教育メディア学会研究会

(2019年7月6日：茨城大学)

#### (2) 2019年度第2回日本教育メディア学会研究会

(2020年1月26日：和歌山大学教育学部附属小学校)

2. ICoME2019を共同開催する。

(2019年7月23日～25日：Southern University of Science and Technology・深圳市，中国)

3. 企画委員会による「教師のセルフスタディ」誌のオンライン発行。

### ④2019年度収支予算（案）

2019年度収支予算（案）を次ページに記す。

## 2019年度予算案

### 1. 収入の部

収入項目	前年度決算	予算額	備考
繰越金	3,699,127	3,564,251	2018年度から繰り入れ
正会員会費	1,204,000	1,554,000	7,000円×222名（納入率70%）
学生会員会費	73,000	88,000	4,000円×22名分（納入率60%）
団体会員会費	250,000	300,000	6団体
購読会員会費	42,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	86,000	252,000	7,000円×36名分（未納者の30%）
過年度学生会員会費	24,000	24,000	4,000円×6名分（未納者の30%）
過年度団体会員会費	0	0	
過年度購読会員会費	14,000	28,000	7,000円×4会員
入会金	64,000	50,000	25名分
雑収入	167,030	200,000	別刷り印刷，雑誌販売，利子
計	5,623,157	6,265,127	

### 2. 支出の部

支出項目	前年度決算	予算額	備考
通信運搬	162,330	200,000	学会誌・別刷郵送費，選挙関連郵送費，その他郵送費
消耗品	31,913	100,000	文具等
設備・什器	0	0	
印刷製本	677,396	1,000,000	教育メディア研究26(1)・26(2)，別刷
会議費	33,296	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	0	0	ICoME2019 国外開催のため
借損料	16,632	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	95,250	200,000	監査に係る旅費，事務局会旅費，事務員旅費
諸謝金	624,300	650,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	12,867	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	85,422	140,000	研究会委託費 2回分。
企画委員会委託費	216,304	200,000	企画委員会委託費
システム運営費	32,215	35,000	ホスティングサーバー料金，DNS料金
論文賞賞金	62,229	65,000	賞金，賞状
雑費	4,752	50,000	振込手数料
予備費	4,000	3,075,127	
次年度繰越金	3,564,251	0	
計	5,623,157	6,265,127	

---

## 2019年度 日本教育メディア学会 第26回 年次大会ご案内【最終案内】

---

2019年度 日本教育メディア学会 第26回 年次大会にあたってのご挨拶

大会実行委員長 林向達(徳島文理大学)

いよいよ2019年11月2日(土)と3日(日)に徳島文理大学で日本教育メディア学会 第26回年次大会を開催いたします。

元号が平成から令和に変わって初めての年次大会となります。教育とメディアにとっての平成を振り返り、今後を展望するのに、これほど良い機会はありません。参加者の皆様と歴史にふれながら新たな時代を模索していく場となる年次大会にできればと考えています。大したおもてなしは致せませんが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 1. 日時と場所

2019年11月2日(土), 3日(日)

学会会場：徳島文理大学（徳島キャンパス）9号館6階，7階

〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180

[徳島駅より市バスで15-20分程度（「文理大学前」バス停下車）]

懇親会会場：JR ホテルクレメント徳島（徳島駅前）

[学会会場より送迎手段を準備中]

### 2. 後援・協賛

後援：徳島県教育委員会

協賛：株式会社NHKエデュケーショナル

### 3. 全体日程

11月2日（土）

9:30-	受付
10:00-11:30	企画1 「オープニングトーク：教育メディア研究のこれから」
11:30-12:30	昼食
12:30-13:20	総会
13:30-15:30	一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
15:45-17:00	企画2 「教育メディアにとっての平成時代」

18:00-20:00	懇親会（徳島駅前）
-------------	-----------

11月3日（日）

9:30-11:30	<b>課題研究発表</b> 1「教師のセルフスタディ」 2「メディア・リテラシー教育における教育メディアの可能性」 3「情報活用能力の育成とメディアの活用」 4「探究におけるメディア活用」
11:30-12:30	昼食
12:30-14:30	一般研究発表（1件あたり30分発表）※質疑と交代を含む
15:00-16:30	<b>企画3</b> 「新たなメディアがつくる令和時代の学校・地域・文化」

#### 4. シンポジウム企画のご案内

##### 【企画1】オープニングトーク「教育メディア研究のこれから」

11月2日（土）10:00-11:30

登壇者：小柳和喜雄（奈良教育大学）・池尻良平（東京大学大学院）・勝見慶子（兵庫教育大学大学院）

概要：日本教育メディア学会学会長からのウェルカムスピーチとともに、若手研究者による教育メディア学会の魅力の紹介、本学会の論文誌「教育メディア研究」に採録された最新の研究事例を通して、教育メディア研究の現在の姿とこれからへの期待を探ります。

##### 【企画2】教育メディアにとっての平成時代

11月2日（土）15:45-17:00

登壇者：浅井和行（京都教育大学）、中川斉史（徳島県東みよし町立足代小学校）、佐藤和紀（常葉大学）

コーディネーター：林向達（徳島文理大学）

概要：今年2019年は、平成元号を終え令和元号へと移行し、2020年に東京オリンピックを控えた年です。この機会に平成30年間を便宜的な区分として、教育メディアの変遷を振り返ることは、テクノロジーがさらに進化する今後における教育メディアを見通すためにも有用だと考えられます。1990年代、2000年代、2010年代の時代区分や、テレビ、ネット、モバイルといったデバイスの変化等を切り口として、これまでの「教育メディア」像を様々交わせることを通して、教育とメディアの平成史を共有し、今後の教育メディア研究への示唆を見出していきます。



### 【企画3】新たなメディアがつくる令和時代の学校・地域・文化

11月3日（日）15:00-16:30

登壇者：宇治橋祐之（放送文化研究所）、葉山敦美（座間市立図書館）、山内雅博（愛媛県西条市立神戸小学校）

コーディネーター：稲垣忠（東北学院大学）

概要：4K/8K 放送，動画配信サービスの充実，AR/VR/MR コンテンツ，第5世代の無線通信（5G）により，映像メディア・コンテンツのあり方は大きく変わりつつあります。そしてそれらのコンテンツを作る際にも，アクセスし，視聴する際にも人工知能が支援し，履歴はビッグデータとして活用されるようになりました。視聴覚メディアの教育利用を主な研究領域としてきた本学会にとって，こうしたメディアの変化が学校教育，生涯学習，教育コンテンツにもたらす新たな可能性や留意すべきリスクを明らかにすることは重要な課題と言えます。そこで本セッションでは，先進的な ICT 環境で新たな学校教育に取り組む事例，地域の学習拠点である図書館における新たな取り組み，放送・映像コンテンツの進化と展望をそれぞれの第一人者から話題提供いただき，学会参加者との対話を通して今後の研究課題を明らかにしていきます。

※課題研究，一般研究のプログラム詳細は10月中旬に学会ウェブサイトにてご案内します。

<https://sites.google.com/view/jaems2019/>

#### 5. 参加費・申込みについて

- ・事前の参加申し込みおよび参加費の支払いは9月30日をもちまして締め切らせていただきました。
- ・当日の参加費は，以下の通りです。当日受付にてお支払いください。

正会員 4000 円

学生会員 2000 円

非会員 5000 円 ※ただし，非会員の現職教員は無料

学生非会員 3000 円

懇親会 5000 円(学生 3000 円)

#### 6. その他

- ・前回大会に引き続き本大会において，発表予稿集は刊行せず，会員の皆様に PDF ファイルの形での配布となります。事前にメールにてダウンロード先の URL をお送りします。ご自身の端末等を持参するか，事前に学会の Web よりプログラムを印刷し，持参ください。
- ・学会会場には，なるべく公共交通機関でお越しください。
- ・年次大会に関するお問い合わせは，下記までお願いいたします。

第26回年次大会事務局

徳島文理大学 林(りん)研究室

電話 088-602-8320 メールアドレス [jaems.taikai2019@gmail.com](mailto:jaems.taikai2019@gmail.com)

---

## ICoME 2019 のご報告と次年度のご案内

---

編研究会（国際）委員会

2019年7月23日（火）～25日（木）の間、中国・深センの China Capital Market Institute において、第16回目の the International Conference for Media in Education (ICoME2019) が開催されました（ホスト：Southern University of Science and Technology, International Centre for Higher Education Innovation under the auspices of UNESCO）。

ICoME2019 のテーマは、「Artificial Intelligence + Education」とされ、数多くの基調講演および発表が行われ、盛会となりました。大会最終日の25日には、中国でも有数の研究大学である Southern University of Science and Technology のキャンパス見学や、深センを拠点とする企業や、地元の学校へのスタディツアーが催されました。

会期中の様子をまとめた映像が、ICoME2019 のサイト内にアップロードされています (<http://icome2019.sustech.edu.cn/>)。ご参加いただけなかった皆さまもぜひご覧いただき、来年度の ICoME へのイメージを膨らませていただければと存じます。

また、次年度の ICoME の開催国、開催地および開催日程について決定しましたのでご案内いたします。

- 開催国 : 日本
- 開催地 : 甲南大学・岡本キャンパス（兵庫県神戸市）
- 開催日程 : 2020年8月17日（月）～19日（水）

ICoME2020 のウェブサイト開設と Call for Paper の開始は、10月から11月となる見込みです。なお、2020年は東京オリンピックの開催年となっており、多くの外国人旅行者が訪日されることが予想されます。早めに予定を押さえていただき、移動や宿泊場所を早めにご予約いただくことを推奨します（学会としてホテル仲介などは行わない予定ですので、各自でご手配ください）。

詳細な情報については、随時本学会ウェブサイトおよびメーリングリストにてご案内いたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

以上

## 第 1 回研究委員会 研究会のご報告

2019 年度第 1 回研究会のご報告

テーマ「学校放送番組を活用した実践研究／一般」

2019 年 7 月 6 日（日）、2019 年度第 1 回研究会が茨城大学にて開催されました。18 名が参加し、5 件の研究発表が行われました。

今回の研究会は「学校放送番組を活用した実践研究／一般」をテーマに開催されました。

タブレット端末をはじめとした教育 ICT の整備・普及は全国各地で進められており、放送番組の活用方法も多様になってきています。また、今年は学校放送番組の開始から 60 年の節目にあたります。このようなことを鑑みて、本テーマを決定しました。

最終的な発表件数は 5 件でした。

「高校道德における動画教材開発に関する研究」では、茨城県で推進されている高等学校の道德における動画教材の開発と教育実践の評価について報告されました。

「学校放送番組を活用する道德科の本時の授業構成についての検討」では、複式学級において「考え、議論する道德」の授業を具体化するために、子どもの生活体験と結びつけて考えることができる学校放送番組を利用した本時の授業構成について授業の成果と共に報告されました。

「「読むこと」領域における小学校国語科学習者用デジタル教科書の使用に関する児童の意識調査-予備的調査の結果報告-」では、小学校国語科学習者用デジタル教科書を使用した授業に関する児童の意識変容の結果について報告されました。

「「真正の学び」に向けた学習指導についての考察 -e ポートフォリオ・システムの機能比較を通して-」では、現在高等学校等に導入活用されている数社の e ポートフォリオ・システムの機能比較を通して、「真正の学び」に期待される評価方法としての e ポートフォリオの現状について整理した結果について報告されました。

「映像教材を基点にした学習成果のアーカイブ手法 -地域理解を促すガイド教材の活用事例から-」では、特定のまとまった映像教材（放送番組や動画データ）に関連して、探究活動や思考の履歴を重ね合わせる学習成果の共有を想定した場合、現時点でどのようなアーカイビングの手だてがあるのかを検討した結果について報告されました。

全体を通して、テーマについての議論も十分になされました。発表同士だけではなく、参加者からの質疑も活発に行われました。それぞれの発表内容は、今後の展開が期待されるものばかりでした。本研究会にご参加いただきました皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

文責：小林祐紀（茨城大学）



---

## 「教師のセルフスタディ」に関する概要と執筆手引き＋募集告知 (第2報：最終)

---

企画委員会による「教師のセルフスタディ」誌の編集・発行について（第2報：最終）

第9期企画委員会では、教育実践の充実度を学会から発信すること、学校教員による実践研究の第一歩として、学会誌「教育メディア研究」とは別に、教育実践による論文報告集をオンラインで発行することを計画しています。①自らが計画・実践した教育実践であり、②11月に開催される学会年次大会で発表をする（課題研究・一般研究を問わない）という条件を満たしたものについて、2019年度中に発行する報告集の第1号に投稿していただけるように準備をしています。初等・中等教育機関に所属する教員の発表を優先しますが、高等教育機関において、自ら教育実践を計画・実施した方も対象としております。

査読なしの教育実践研究としますが、企画委員会で閲読した上で、修正点をアドバイスします。また、各論文については、企画委員会からひとことコメントを付ける形でその実践の良さや特徴などをより明確にしたうえで発行します。

スケジュールと執筆の手引きについて、以下に掲載しますので、奮ってご投稿ください。投稿先等の情報については、第2報でご案内します。

なお、11月に徳島で開催される年次大会におきましては、この企画と連携させた課題研究「教師のセルフスタディ」を予定しております。本課題研究では、発表に基づき、より充実した投稿に向けて議論したいと考えています。

### スケジュール

- ・11月2日、3日（学会年次大会開催）※3日に関連課題研究「教師のセルフスタディ」を開催予定
- ・12月20日締切
- ・1月20日ごろ閲読結果の返送
- ・2月15日著者による最終投稿
- ・3月15日編集完了および公開

### 電子ジャーナル掲載論文の執筆の手引

1. 執筆者（筆頭筆者）は、学会の正会員でなければいけません。当該年度の年次大会で発表した教育実践を対象とします。共著は可ですが、実践者本人が筆頭著者を務めてください。

2. 原稿は、執筆者自身が教育実践を深く振り返るとともに、読者がその実践を共有し、活かすことができる論文で、6ページ以上、10ページ以下とします。

※「教育メディア研究」をはじめとした学会誌の投稿につなげる実践研究の第一歩という位置付けですので、研究としての新規性は特に求めません。しかし、実践者本人としてより深いリフレクションを心

がけたり、客観的なデータを示す工夫をしてください。なお、査読は行いませんが、読みやすさを高めるために企画委員会で閲読を行います。

3. 原稿は未発表のものに限ります。ただし、学会の年次大会や研究会などでの発表、プリントの場合は、未発表の扱いとします。

4. 執筆者は、原稿が第三者の著作権その他の権利を侵害していないことを保証するものとします。執筆後に投稿された論文が、第三者の権利等の侵害に起因する問題を生じさせた場合、当該論文の著作者が一切の責任を負うものとします。

## 5. 投稿方法

企画委員会が用意をする宛先にメールによりご投稿いただきます (9th\_event@jaems.jp)。

## 6. 論文の構成

論文はタイトル、要旨 (400 字以内)、キーワード (6 個以内)、本文、注、引用参考文献により構成します。

## 7. 版組・書式

### (1) 版組

- ・用紙：B5・縦置き・横書き
- ・余白：上 24mm, 下 22mm, 左 20mm, 右 24mm
- ・段組：横 20 字×縦 43 行×2 段組 (ただし、タイトル、執筆者名、要旨、キーワードは 1 段組)

### (2) 行間

- ・タイトル (サブタイトル) 前後：各 1 行
- ・執筆者名後：1 行
- ・要旨後：1 行
- ・キーワード後：1
- ・見出し前：1 行
- ・欧字執筆者名後：3 行
- ・図・表・写真の上下：各 1 行

### (3) 見出しについては、以下のような扱いとします。

- ・1., 2., 3. (最上位の見出し)：見出しと本文の間に 1 行行間
- ・1.1, 1.2., 1.3. (下位の見出し) 及びこれ以下のもの：下位の見出しと本文の間は行間なし。

#### (4) 表記細則

- ・和文は明朝体 (MS 明朝, ヒラギノ明朝 pro 等) またはゴシック体 (MS ゴシック, ヒラギノ角ゴ pro 等), 英文は Century/Times/Times New Roman とし, 下記の大きさに準拠します。
- ・タイトル: 明朝体 (ボールド), 12 ポイント, 中央寄せ。なお, 読点はいれません。
- ・執筆者名: 明朝体, 9 ポイント, 右寄せ
- ・執筆者所属: 明朝体, 9 ポイント, 右寄せ
- ・要旨: 明朝体, 8.5 ポイント, 両端揃え
- ・キーワード: 明朝体, 9 ポイント, 両端揃え
- ・本文: 明朝体, 9 ポイント, 両端揃え
- ・見出し・小見出し: ゴシック体 (ボールド), 9 ポイント, 左寄せ
- ・図/写真タイトル: ゴシック体, 9 ポイント, 図/写真下部に左寄せ
- ・表タイトル: ゴシック体, 9 ポイント, 表上部に中央寄せ
- ・欧字執筆者名: Century/Times/Times New Roman, 9 ポイント, 右寄せ
- ・数字・欧字は, すべて半角に統一する (ただし固有名詞・慣用句の数字は漢数字)。
- ・句読点は, 「,」「。」です。
- ・表記は, 引用文を除き, 常用漢字・新送り仮名を原則とします。
- ・年代表記は, 西暦とし元号を用いる場合は, 西暦 (元号) とします。
- ・人名は初出の場合は, 氏名表記とし, 再出では氏のみでの表記とする。なお外国人の場合はカタカナ表記とし, パーレン括弧によって欧字表記もつけます。例: ジョン・デューイ (John Dewey)
- ・差別用語を用いないように細心の注意を払ってください。

#### 8. 注・引用・参考

注・引用・参考の方法および文献の表記方法については, 日本教育工学会 (<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>) の方法を参照してください。

#### 9. 掲載後の著作権

(1) 電子ジャーナルに掲載された論文の著作権は, 本学会に帰属します。また, 著者は, 本学会が作成する Web サイトに論文を掲載・提供することに許諾したものとします。

(2) 論文について, 執筆者自身による教育目的での利用 (著者自身による著作物への転載, Web サイトへの掲載, 複写による配布等を含む) は, 本学会に許諾申請をする必要はありません。ただし, 出典(論文題目, 電子ジャーナル名, 掲載年等)を記載してください。

---

## 論文投稿のご案内

---

編集委員会（委員長／黒上晴夫：関西大学）

2019年度2号のテーマは、「深い学びと教育メディア」です。10月中に投稿いただければ、特集号への投稿として受理できます。『教育メディア研究』では年1回発行される特集号論文の他に一般論文も広く募集しています。投稿は随時受け付けています。

---

## 学会費納入のお願い，入会者・退会者

---

### ◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日）の年会費（正会員7,000円，学生会員4,000円）が未納の方は，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨニイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にしてください。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ，デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

### ◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために，学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は，事務局までメールアドレス，お届け先住所の情報をお送りくださるよう，よろしくご願ひいたします。

### 【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（8名）・・・鈴木和也，山本樹，保科一生，宇田川敦史，神谷説子，長尾幸彦，寺嶋隆，細川都司恵

新入会員・学生会員（2名）・・・垣脇健吾，丹下承子

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条の改正が承認されました。改正された規定では，会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。

会費の納入状況についてご不明な点がございましたら，事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。



-----  
第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

(1) 正会員、学生会員、団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。

(2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

-----

会員総数 357名・16団体

名誉会員：4名

正会員：317名

学生会員：36名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

(令和元年9月20日現在)

<p style="text-align: center;"><b>日本教育メディア学会 事務局</b></p> <p>〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 兵庫教育大学 永田智子 研究室内 E-mail : <a href="mailto:office@jaems.jp">office@jaems.jp</a> 学会ホームページ URL : <a href="http://jaems.jp/">http://jaems.jp/</a></p>	<p style="text-align: center;"><b>広報委員会</b></p> <p>委員長 渡辺雄貴 (東京理科大学) 副委員長 岩崎千晶 (関西大学) 委員 井ノ上憲司 (大阪大学) 遠海友紀 (東北学院大学) 竹中喜一 (愛媛大学) 多田泰紘 (関西大学)</p>
---	---